

平成6年度(1994)
個展を前提とした作品制作研究(12)
第12回個展・Gallery Work II in Naha

金城 満

1. 展覧会名:

金城満 - 電脳版画展 -

2. 趣旨:

脳そのものは「版」かもしれない。人間の脳とコンピュータとの関係をテーマにした版画シリーズ。

3. 材料技法

CG、シルクスクリーン、箔

4. 展覧会場

Gallery Work II

5. 展覧会期

1994年12月05日(月)～10日(土) ※6日間

6. 開館時間

11:00～19:00

7. 観覧料金

無料

8. 企画

Gallery Work II

9. 作品リスト

No.	作品名	サイズ (cm)	材 料	制作年月	備 考
164	すきまへ	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
165	すき間くる	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
166	ちよとぶ笛	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
167	とぶ魚	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
168	ムシの証明	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
169	月魚	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
170	身体波	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
171	電腦	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
172	入ったすきま	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
173	波ふたつ	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
174	迷いムシⅠ	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
175	迷いムシⅡ	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
176	夜のせみ	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
177	夜の証明	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展
178	緑の夜	29.7 x 21.0 cm	CG、シルクスクリーン、箔	1994年	第12回個展

10. 関連イベント

11. 考察（報道等資料）（pp. 11-12）

(1) 沖縄タイムス 1994. 12. 09 展覧会から 金城満 - 電腦版画展 -

(2) 沖縄タイムス 1995. 01. 08 12月美術月評
可能性秘めた作品 金城満 - 電腦版画展 - (翁長直樹)

(3) 2002年8月発行・ANA国際線機内誌抜粋 (p. 13部分)

平成14年(2002)に全日空国際線機内誌で、沖縄の工芸やアートをテーマにした特集があった。その中の1人として取材を受けた。

(ライター: Kim Schueffan)



金城満 电脑版画展
 1994年12月5日(月)~10日(土)
 GALLERY WORK II (画廊冲縄)

POST CARD



■金城満 电脑版画展
 ■1994年12月5日(月)~10日(土)
 AM11:00~PM7:00

脳そのものは「版」かもしれない。

●画廊冲縄 那覇市泉崎2-2-3 TEL 098(834)6760	パレット くもじ○	国際通り		
	●GALLERY WORK-II 那覇市泉崎2-2-4 TEL 098(855)7933	県庁○ 県警○	ホテル ○レインポー	那覇高 ○
		●●画廊冲縄 GALLERY WORK-II	至開南→	



波ふたつ
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔

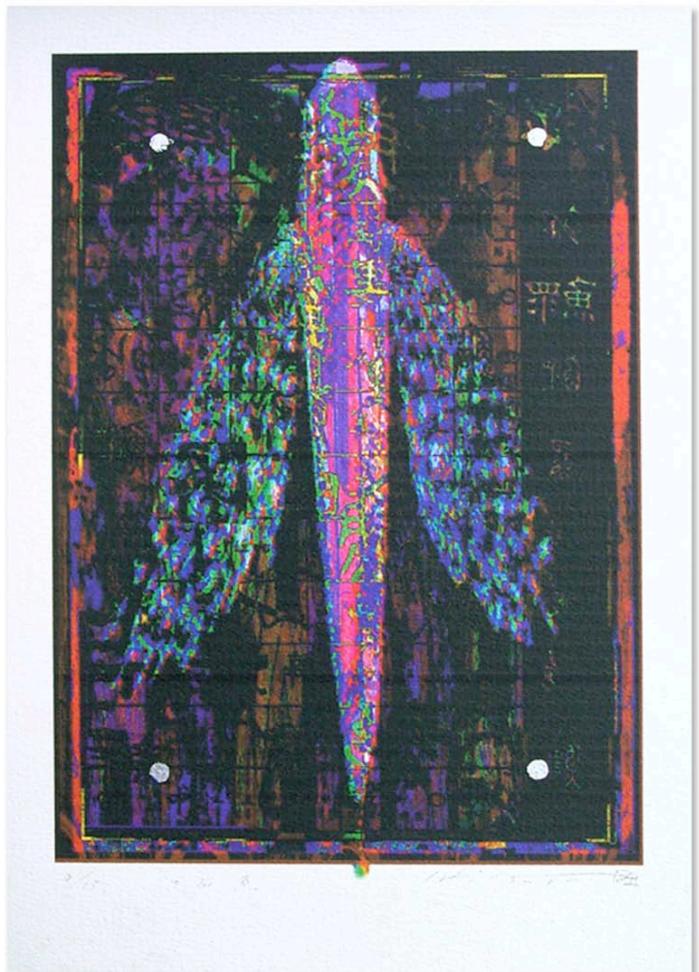


すき間くる
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔

ちょうとぶ笛
29.7 x 21.0cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔

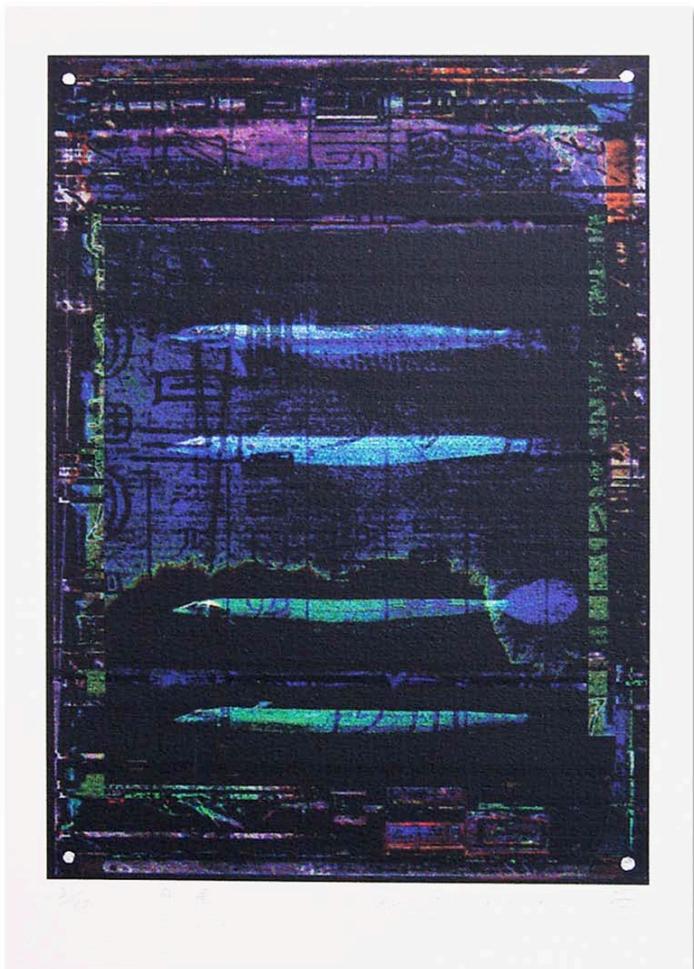


とぶ魚
29.7 x 21.0cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔





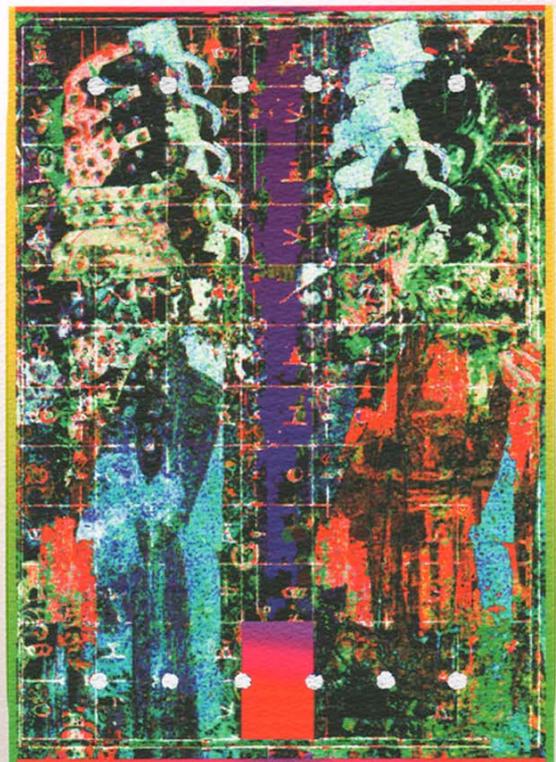
ムシの証明
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



月魚
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



入ったすぎま
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



電腦
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



迷いムシ
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



すきまへ
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



緑の夜
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



迷いムシII
29.7 x 21.0 cm 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



夜のせみ
29.7 x 21.0 c m 1994年
CG、シルクスクリーン、箔



身体波
29.7 x 21.0 c m 1994年
CG、シルクスクリーン、箔

沖縄タイムス

平成6年(1994)年12月09日

展覧会から

本年度を締めくぐる企画展として読谷村立美術館では、「新城征孝展」が開催されている。一月八日まで。

画歴20余年から69点

新城征孝展

読谷村立美術館

実画であって、写実画でない絵」と説明した。

心に、今回の個展を意識し、座喜味城跡などを描いた「城」シリーズなど、さまざまな方面から沖縄を描いた。

新城さんの代表作の一つとなる「テトラポット」シリーズ。「海」

を意識しながら、あえて海を描かない表現方法をとった。「テトラポット、海鳥、釣り人で海を表現

二十余年の画歴の中から、一九七三年から今年までの作品六十九点を紹介した。回展開催が昨年四月と、早い時期に決定していたこともあり、全作品のうち今年手掛けた作品が、約三十点にのぼるとい

う。作品は、海洋博覧会を記念して描き始めた「テトラポット」を中

◆金城満電脳版画展(ギャラリーワークII、10日)

脳そのものは「版」かも知れない」とのサブタイトル。



「ムシの証明」=ギャラリーワークII

クス)は、電子的な外脳(言える)と金城さん。脳にある情報は、これから行くこの方向性・予感。これをCGで映像として表現する版画を制作する。

「版画にはいろいろな手法があるが、すべての版画を作成する前には脳の中にその像をつくる。CG(コンピューター・グラフィック)の上に、さらにシルクスクリーンで銀箔(はく)を乗せていく作業は、CGで処理されざることで、きない電氣的版画と、手や皮膚の感触で仕上げるシルクスクリーンの対話を求める。作者自身、「まだ言葉での表現に達していない新しい試み」と話す。

美術月評

翁長直樹

〈12月〉

今年開催されるベネチア・ビエンナーレに日本代表として決まった企画は、日本の固有の文化を多様な技法でプレゼンテーションするものであった。それはアートの陳腐さを避けたいという点で批判を浴びたが、実はこのベネチアも美術に付きまとっている問題である。つまり国際性モダニズムと地域性(固有性)の問題でもあるからだ。今年は戦後五十年年の節目でもあり、沖縄においてもこのことを考える契機になればと思う。

上A4サイズが限異なのであるが、精度が上がり大判印刷ができればより可能性が出てくる。
美術におけるモダニズムが視覚の純粋化で眼文化文化であるならポストモダンとは脳文化であるとは評論家の早見英氏の言であるが、メディア・ウムを顕在化させイデオロギッシュに見る主体を超越的に描定(そてい)するモダニズム的作品作りから意識的に逸脱して行くことすれば、限りなくデジタル化していく脳脳メディア

可能性秘めた作品

金城満 电脑版画展

「脳そのものは「版」か。うえ、版画の版に近い。よしれない」とと案内の「て脳は「版」そのものか。ハガキの文章が気になって、もしれない」といって、作者に質問してみた。驚いた。さまざまな写真画像を、コンピュータに取り込んで、カラープリンターで刷った作品とわかる。いままで、コンピュータでデフォルメした色彩をのこるプリンターの性能がある。

変換し、着色し重ねてできた作品。
一見シルクスクリーンと似た、今のところアナログ的なシルクスクリーンの延長であるが、いずれ複雑で画面に凹凸がないの、でカラープリンターで刷った作品とわかる。いままで、コンピュータでデフォルメした色彩をのこるプリンターの性能がある。



金城満・电脑版画展から「身体波」=ギャラリーワークII

Mitsuru Kinjo—Fragrances and Flavors

When visiting an artist's home, it is often a good idea to take a look at what has been chosen from works of other artists. At the home of Tamiko Makishi, a bright picture on the wall attracted me; a close scrutiny increased my interest and desire to meet this artist. That is how and why we went to the Gallery Okinawa and met Mitsuru Kinjo. He is not a craftsman, but a young teacher of art at the junior and senior high school levels. He is also a print maker.

Kinjo uses a combination of computer, hand coloring, and silk screen techniques. His exploration of the computer as a medium is enthusiastic and vigorous. "Instead of a physical printing medium, the computer is my 'woodblock,'" he stated.



Moon Fish

The bright print reproduced here is entitled *Sanshin*—Okinawan shamisen music. Kinjo has captured the emotional contrasts of this music in a single work. "Even when using strong color, I want the sound of the print to be quiet."

The blue print, entitled *Moon Fish*, is included here to show Kinjo's versatility and sensitivity (and as an expression of the luminous night seas of Okinawa).

Both prints have distinct character. "There is an Okinawan term *aji kuuta*, which means something that has a deep flavor, something that takes time to make, to allow to ferment, something that reflects process and commitment. That can be seen in these prints."

When asked about how he approaches his art, Kinjo replied, "I feel the computer is an outside 'mind.' I want to work with a balance of inside and outside, work just at the border of my own and an external mind. I want my work to be without a skin between these two minds."

The print series in question was completed in 1999, each print in a run of 15. Kinjo stated that he is not making a series at present, but added, "What fascinates me now are those concrete grids used to strengthen roadside slopes and embankments. The way these grids flow over the contours of a hill and how the interstices are filled with grass have captured my attention. The graphic possibilities call to me...."



Sanshin